

兵庫県保険医協会神戸支部 研究会ご案内

医療機関での個人情報の取り扱い ～第三者提供、関連法令やガイドライン～

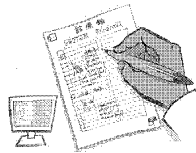
日時 11月17日(土) 17時30分～ 《参加費無料》

会場 兵庫県保険医協会 5階会議室 (神戸フコク生命海岸通ビル5階/
JR・阪神元町駅南へ徒歩7分)

講師 神戸あじさい法律事務所所属 弁護士 増田 正幸 先生

対象 医師・歯科医師、医療スタッフ（事務職、看護師等）

個人情報の取り扱いに関する社会的意識が高まるなか、2017年には個人情報保護法が改正され、小規模も含めた全ての医療機関が同法の適用対象となりました。診療録や処方せん、手術記録、看護記録、エックス線写真、紹介状など、患者情報の日常管理や取り扱いについて医療機関管理者やスタッフには、より慎重さが求められています。



患者が交通事故や労働災害、その他トラブルなどに遭遇した場合、保険会社や弁護士、裁判所、警察などの第三者から、患者カルテの開示や傷病名、治療内容などの情報提供を求められることがあります。医療機関は、個人情報の提供・照会の問い合わせに、「個人情報の保護に関する法律」や「医療・介護関係事業者における個人情報の適切な取扱いのためのガイドライン」に沿って対応する必要がありますが、実際にはどう判断してよいか迷うケースも多いと思います。

上記の内容について、神戸あじさい法律事務所の増田正幸弁護士にお話いただきますので、院長、スタッフそろって、どうぞご参加ください。

お問い合わせは、兵庫県保険医協会・事務局（TEL/078-393-1840）まで

【神戸支部研究会(11/17) 参加申込FAX・078-393-1820】

市区郡 _____ 病・医院 _____ ご担当者名 _____

連絡先 Tel _____ 参加者数 _____ 人

(事前質問やお困りのケースなどがあればお寄せ下さい)

兵庫県保険医協会

317号 2018年9月25日

神戸支部ニュース

発行 兵庫県保険医協会神戸支部

連絡先 〒650-0024 神戸市中央区海岸通1-2-31 神戸フコク生命海岸通ビル5F

兵庫県保険医協会 TEL/078-393-1801 FAX/078-393-1802

糖尿病をテーマに研究会

重症低血糖を防ぐためにすべきことは？

神戸市立医療センター中央市民病院の岩倉敏夫先生



(左) 実態調査から見えてきた重症低血糖患者の特徴について解説する岩倉敏夫先生

(右) 23人の参加者が熱心に研究会を受講した

神戸支部は9月1日、協会会議室で研究会「重症低血糖を防ぐためにすべきこと～安全かつ良質な糖尿病治療を目指して～」を開催。神戸市立医療センター中央市民病院 糖尿病・内分泌内科医長の岩倉敏夫先生を講師に、23人が参加した。

岩倉先生は糖尿病治療による重症低血糖をいかにして回避するかは臨床の重要な課題であり、ここ数年、学会から新しい血糖コントロール指

標や注意勧告が出されていると説明。日本糖尿病学会が主導して施行された重症低血糖の全国調査の結果に触れ、この実態調査から見えてきた重症低血糖患者の特徴とその問題点を紹介し、有効な予防対策について解説した。講演後は活発な質疑応答が行われた。

司会は武村義人副支部長が務め、この秋からスタートする「みんなでストップ！患者負担増」の署2017年に名について訴えた。

神戸市小児科アンケート結果について各紙が報道

神戸の小児病床が足りない

住民の生活圏で、小児病床の確保を一。協会
は8月8日、「神戸市内小児科入院・救急アン
ケート」について、マスコミへの結果報告会を
実施し、神戸新聞・毎日新聞・しんぶん赤旗で
報道された(アンケート結果の詳細は本ニュー
ス7月号に掲載)。

マスコミ懇談会では、小児科医の森岡支部幹
事が結果を報告し、この間相次いでいる病院小
児科の閉鎖について「医療費抑制政策に基づく
医師数の抑制や診療報酬引き下げなどにより中
小病院の経営は悪化し、不採算部門である小児
科の切り捨てや小児科医の労働強化が起こって
いる」と考察し、「地域で子どもの入院体制の
確保・整備が求められている」と訴えた。

神戸新聞は8月20日に、「神戸市内で相次ぐ
病院小児科の閉鎖 診療所の4割『病床足りな
い』」としてアンケート結果をグラフ付きで報
道(右)。市内の小児科が過去10年で2割以上

2018年(平成30年)8月20日 月曜日 第18頁

神戸市内で相次ぐ病院小児科の閉鎖
診療所の4割「病床足りない」

兵庫保険医協会アンケート調査

神戸市内で相次ぐ病院小児科の閉鎖。診療所の4割「病床足りない」としてアンケート結果をグラフ付きで報道(右)。市内の小児科が過去10年で2割以上減少し、大規模病院でも閉鎖が相次いでいると紹介した上で、「子どもは診療のコミュニケーションが難しく、人手も時間もかかる」「不採算部門として小児科が切り捨てられ、労働強化が起きている」と、協会のコメントを紹介した。

毎日新聞は8月21日付で報道。「生活圏の入
院体制を確保すべき」との森岡幹事の意見を紹
介している。しんぶん赤旗も8月17日付で報道し
た。

兵庫県保険医協会 神戸支部役員選挙の公示

兵庫県保険医協会 神戸支部支部長 田中 孝明

兵庫県保険医協会役員等選出規定により、神戸支部役員選挙の公示を行います。

【役職と定数】 支部長 1名 / 副支部長 若干名 / 幹事 若干名

【改選日時】 10月20日(土)午後2時30分
神戸支部第39回総会/兵庫県保険医協会会議室

【立候補日時締切】 10月13日(土) 正午

【立候補届出の方法】

支部役員は、本人の届出により、候補者の資格を得ます。立候補・希望者は、協会事務局までお申し出ください。用紙をお届けします。

みんなでできる 兵庫県保険医協会神戸支部 第39回総会・記念講演

糖尿病性腎症重症化予防

日時 10月20日(土) 14:30~

会場 保険医協会5階会議室

(JR・阪神元町駅から徒歩約7分)

講師 奈良県立医科大学地域医療学講座 赤井 靖宏 教授

共催 田辺三菱製薬株式会社、第一三共株式会社

日本糖尿病協会
「療養指導医取得のための講習会」「歯科医師登録医のための講習会」登録
※当日受講票をお渡しします



糖尿病合併症のひとつに糖尿病性腎症があります。糖尿病性腎症は早期には全く症状がなく、容易に見過される疾患です。日本中で糖尿病性腎症重症化予防プログラムが実施されつつありますが、このプログラムが糖尿病性腎症を減少させるためには、専門医というよりは、かかりつけの先生をはじめ、糖尿病診療に関わるすべての医療者が地道に適正な疾患管理を実施することが重要です。

本講演では、糖尿病を発症させず、発症したとしても合併症にならない管理をお話します。糖尿病性腎症は早期発見・早期治療が特に重要な疾患です。微量アルブミン尿測定は糖尿病性腎症の早期診断に大変重要な検査ですが、実臨床で十分に実施されていません。微量アルブミン尿測定の意義について講演の中でお話しいたします。先生方の明日からの診療にすぐに役立つお話をしたいと考えております。どうかよろしくお願いたします。 【赤井 記】

【あかい やすひろ】1989年奈良県立医科大学卒業。95年奈良県立医大大学院修了。96年米国トマスジェファーソン医科大学附属病院内科レジデント、ペンシルバニア大腎臓・電解質・高血圧内科臨床フェロー。2005年奈良県立医科大学第1内科内講師、08年同大学卒業臨床研修センター准教授、14年3月同大学臨床病学講座准教授副センター長、同10月同大学卒業臨床研修センターセンター長、15年4月同大学地域医療学講座教授

お問い合わせは TEL : 078-393-1807 小西・前川まで

参加申込書

- ・ 総会 (14:30~) 参加 不参加 (議事の一切を議長に委任します)
- ・ 記念講演 (15:00~16:30) 参加 ()人 不参加
- ・ 懇親会 (記念講演終了後) 参加 不参加
*会場: TOOTH TOOTH maison 15th (協会会議室から徒歩5分) 参加無料

地区 () 医療機関名 ()
会員氏名 () 連絡先 ()

▼ FAX返信 078-393-1820 ▼